

Ⅶ 男女共同参画社会の実現に向けて

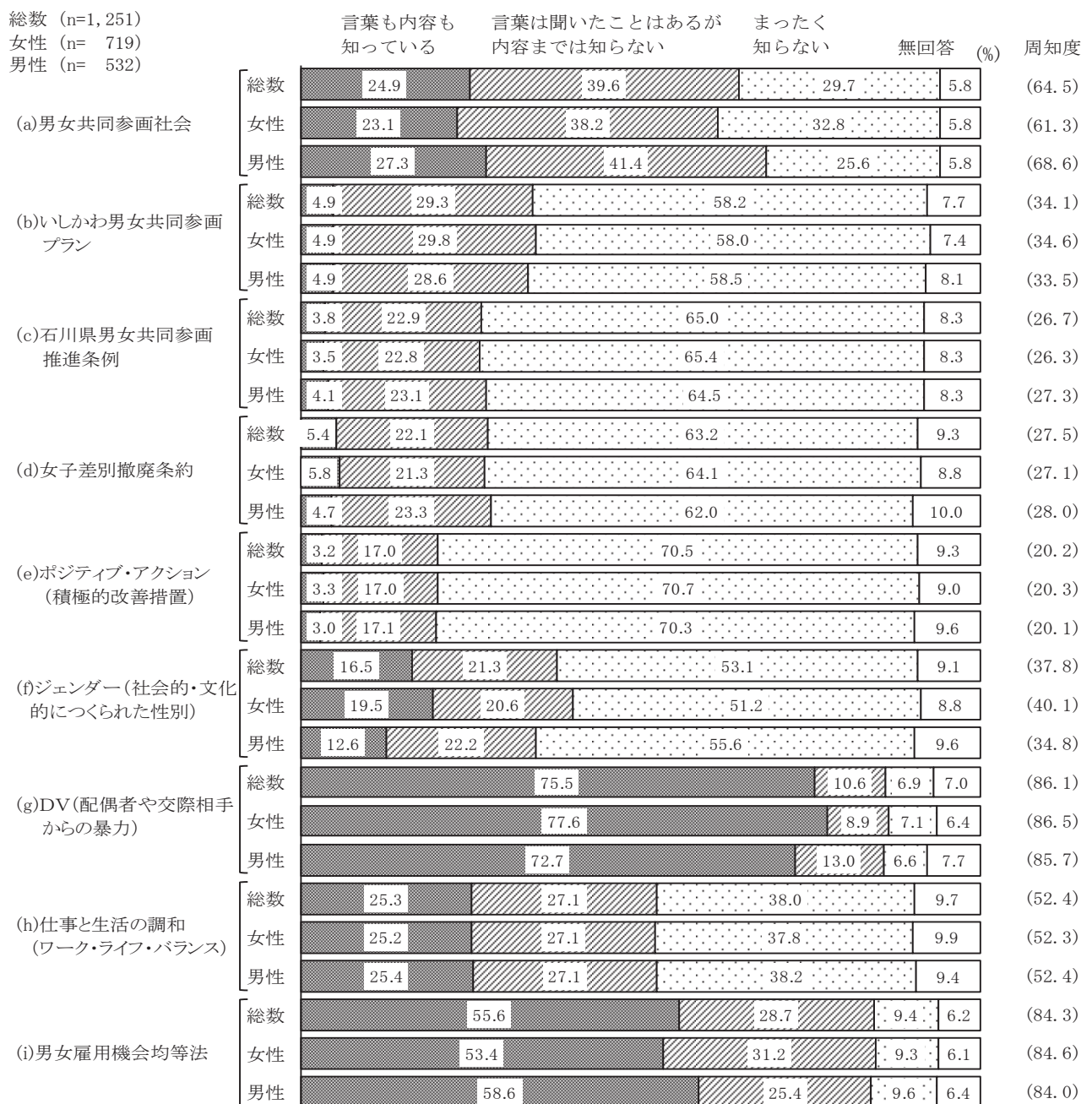
1 用語の周知度

問26 あなたは(a)～(i)それぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

全体では、“(g)DV（配偶者や交際相手からの暴力）”が最も周知度が高く（女性86.5%、男性85.7%）、次いで“(i)男女雇用機会均等法”（女性84.6%、男性84.0%）となっており、ともに8割を超えている。続いて、“(a)男女共同参画社会”（女性61.3%、男性68.6%）で6割を超え、“(h)仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”（女性52.3%、男性52.4%）は5割を超えている。

※周知度：「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない」を合計したもの。

図26-1 用語の周知度 項目別一覧（性別）



用語の周知度 (a) 男女共同参画社会

【性別】

周知度は男性の方が7.3ポイント高くなっている。

【地域別】

男女とも能登中部（女性69.1%、男性77.5%）で周知度が最も高く、能登北部（女性58.3%、男性60.5%）で最も低くなっている。

【年代別】

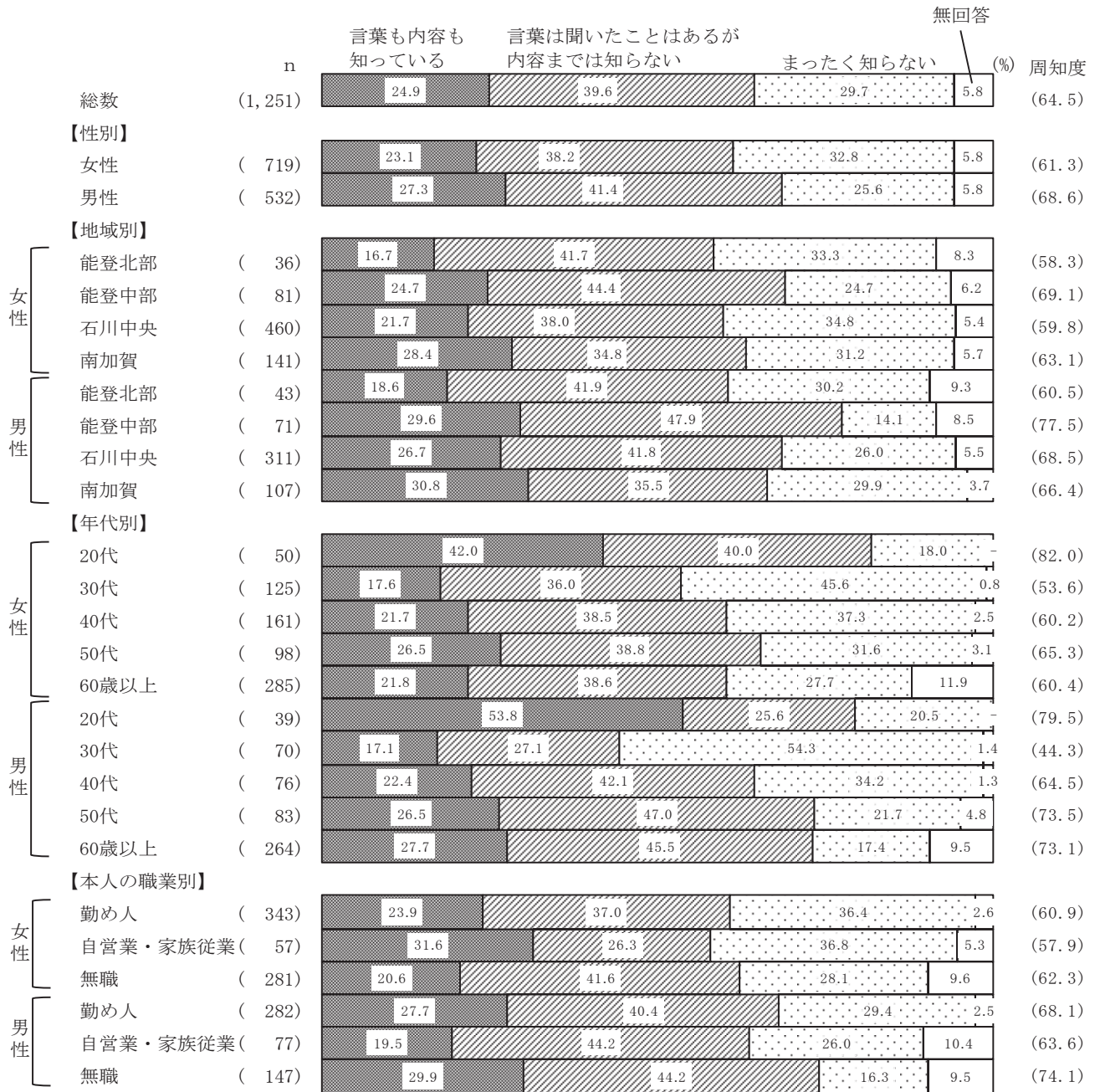
男女とも20代（女性82.0%、男性79.5%）で周知度が最も高く、30代（女性53.6%、男性44.3%）で最も低くなっている。

【本人の職業別】

男女とも無職（女性62.3%、男性74.1%）で周知度が最も高いが、女性では「言葉も内容も知っている」が無職（20.6%）で最も少なくなっている。

図26-2 用語の周知度 (a) 男女共同参画社会

(性別、地域別、年代別、本人の職業別)

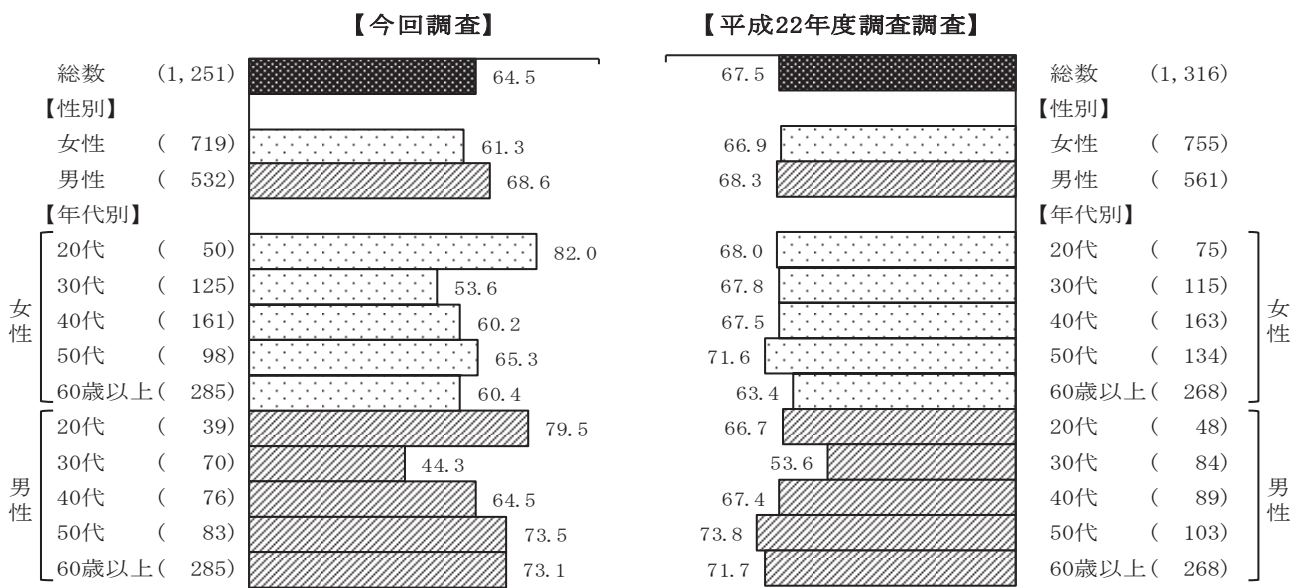


【平成22年度調査との比較】

周知度は女性では5.6ポイント減少し、男性では0.3ポイント増加した。

年代別の周知度は、男女とも20代（女性14ポイント、男性12.8ポイント）で1割以上増加しているが、他の年代では減少しており、30代（女性14.2ポイント、男性9.3ポイント）で1割前後減少している。

図26-3 用語の周知度 (a) 男女共同参画社会（平成22年度調査との性別・年代別比較）



用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン

【性別】

周知度は女性の方が1.1ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は男女とも能登中部（女性40.7%、男性36.6%）と南加賀（女性39.7%、男性36.4%）で他の地域より高くなっている。

【年代別】

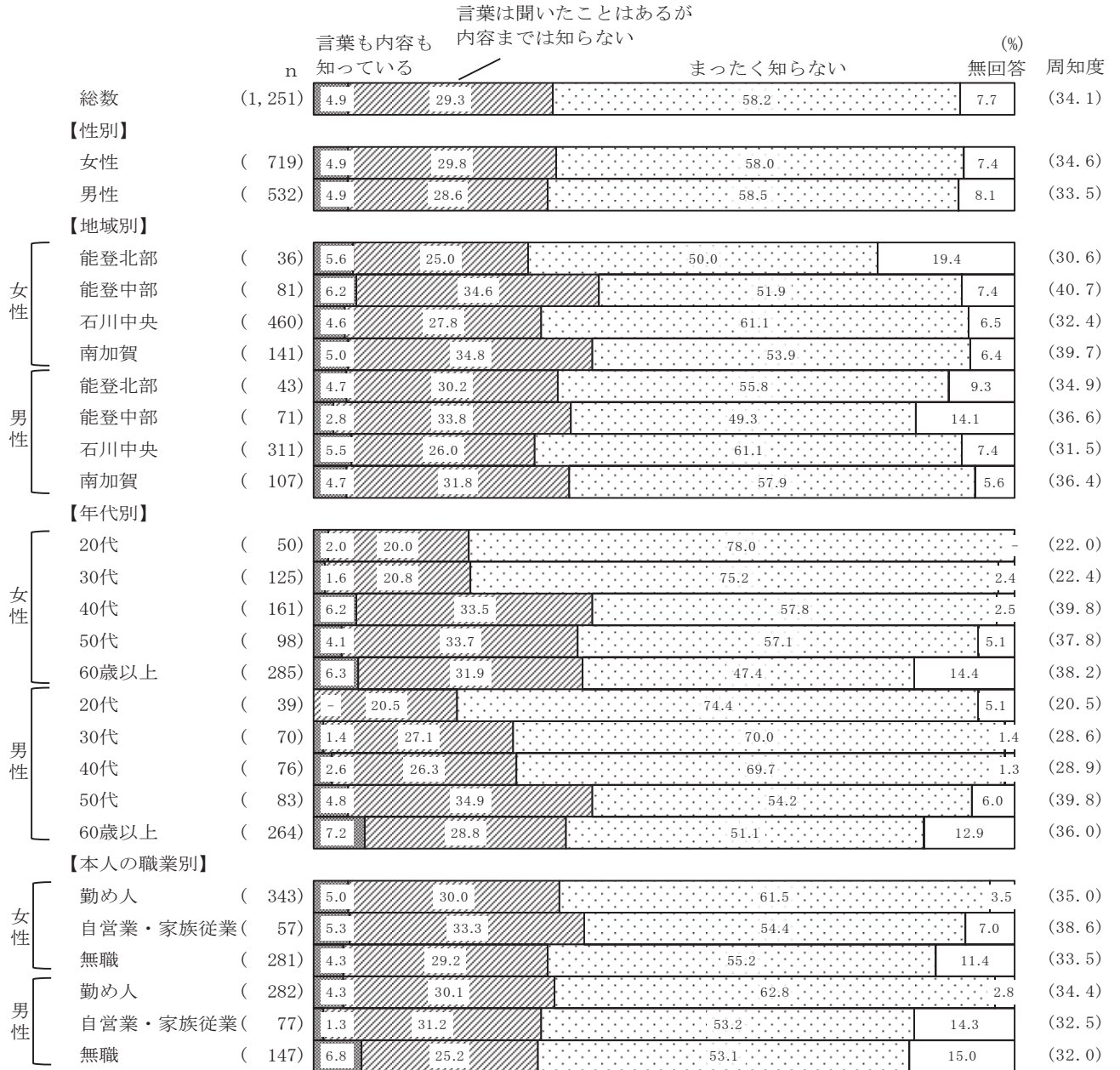
周知度は女性では40代以上の年代で20代（22.0%）、30代（22.4%）より高く、男性では30代以上の年代で20代（20.5%）より、高くなっている。

【本人の職業別】

周知度は女性では自営業・家族従業（38.6%）で、男性では勤め人（34.4%）で最も高くなっている。

図26-4 用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン

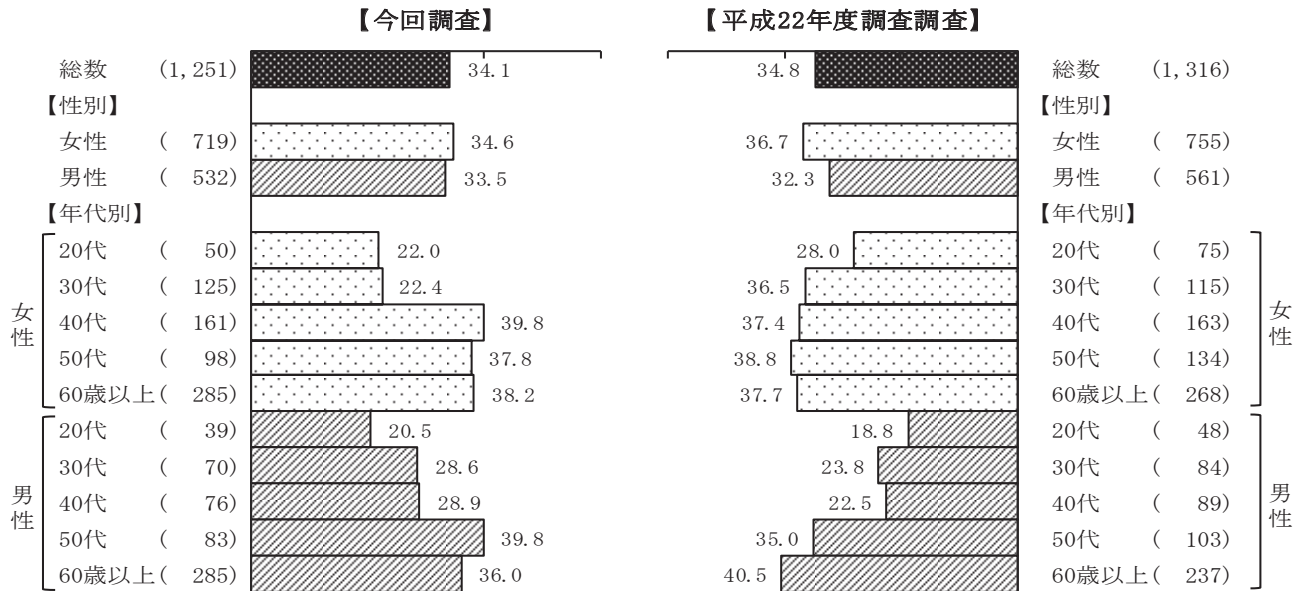
(性別、地域別、年代別、本人の職業別)



【平成22年度調査との比較】

周知度は女性では2.1ポイント減少し、男性では1.2ポイント増加した。年代別の周知度は、女性では、30代で14.1ポイント減少した。

図26-5 用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン (平成22年度調査との性別・年代別比較)



用語の周知度 (c) 石川県男女共同参画推進条例

【性別】

周知度は男性の方が1ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は女性では、能登中部（30.9%）と南加賀（34.8%）で、男性では、能登中部（38.0%）で3割を超え、他の地域より高くなっている。

【年代別】

周知度は女性では40代（26.1%）、50代（23.5%）で2割を超え、60歳以上（33.7%）で最も高くなっている。

男性では40代（17.1%）で最も低くなっている。

【本人の職業別】

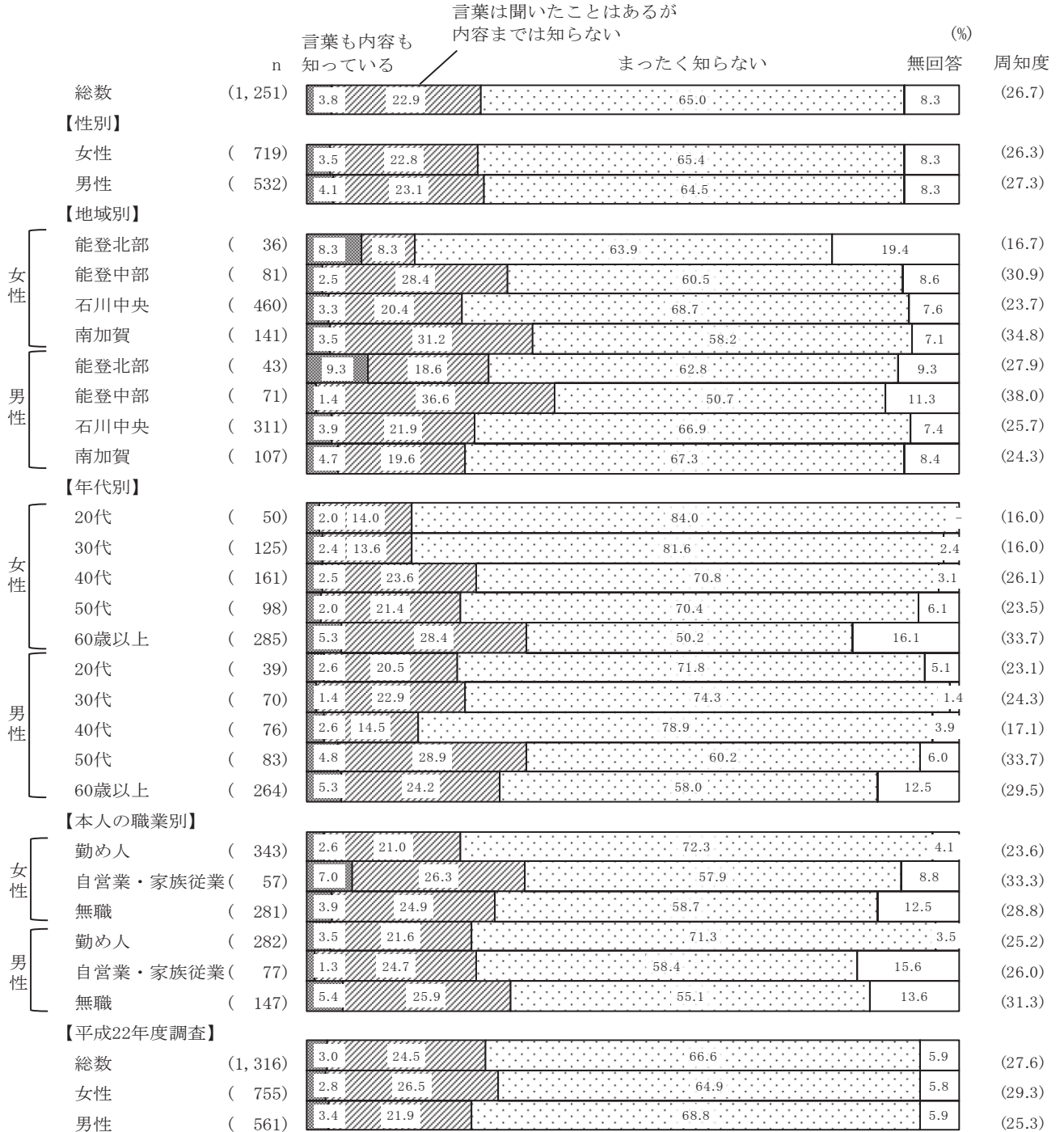
周知度は、女性では自営業・家族従業（33.3%）で、男性では無職（31.3%）で3割を超えている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は、女性では3ポイント減少し、男性では2ポイント増加した。

図26-6 用語の周知度 (c) 石川県男女共同参画推進条例

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)



用語の周知度 (d) 女子差別撤廃条約

【性別】

周知度は、男性の方が0.9ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は、女性では、能登中部（32.1%）で最も高く、男性では、能登北部（23.3%）で最も低くなっている。

【年代別】

男女とも20代（女性46.0%、男性43.6%）で周知度が4割を超え、他の年代より高くなっている。

【本人の職業別】

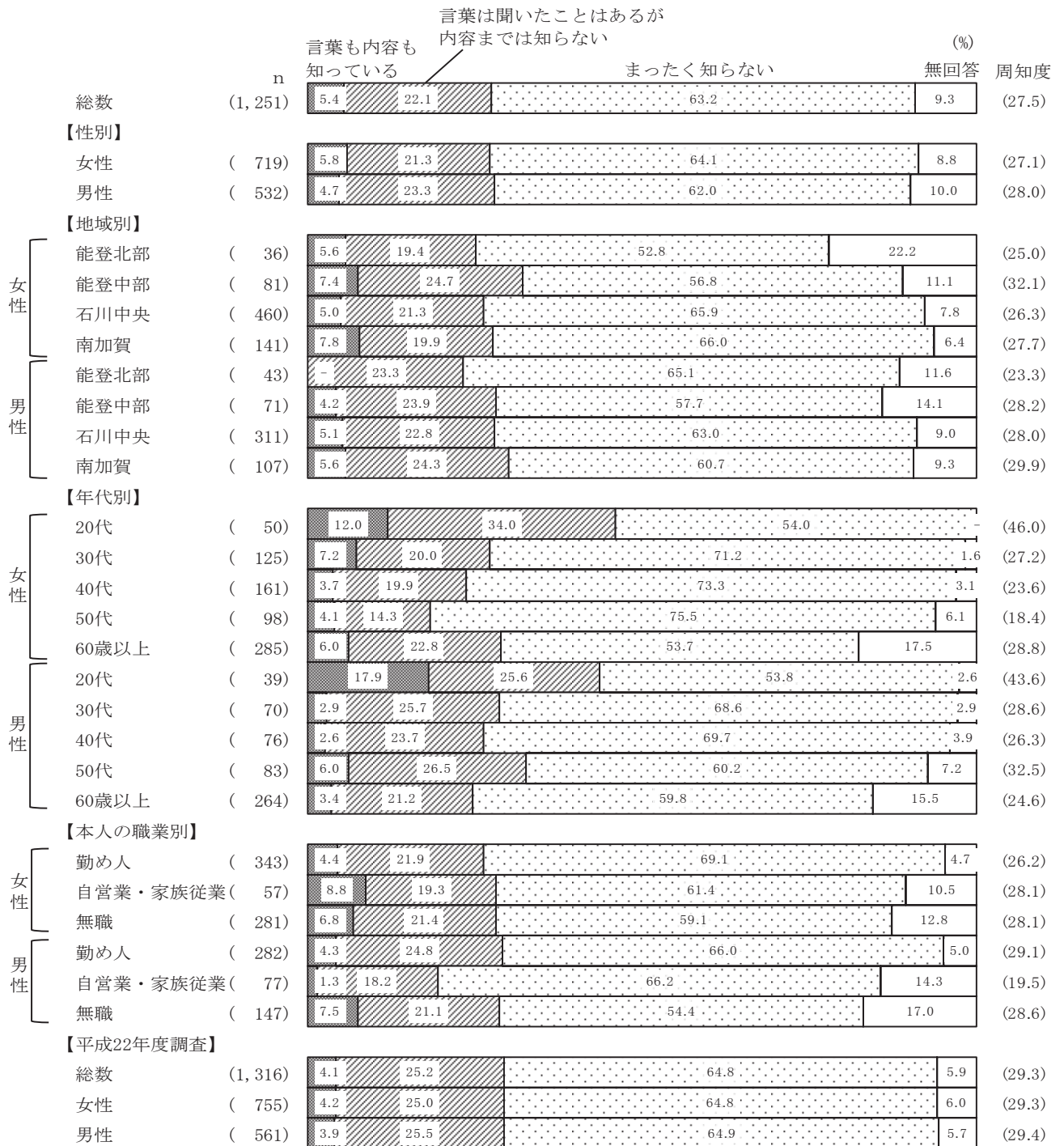
周知度は、女性では、勤め人（26.2%）で、男性では自営業・家族従業（19.5%）で最も低くなっている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は、女性では2.2ポイント、男性では1.4ポイント減少している。

図26-7 用語の周知度 (d) 女子差別撤廃条約

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)



用語の周知度 (e) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

【性別】

周知度は女性の方が0.2ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は、女性では、南加賀（24.8%）で、男性では、石川中央（22.5%）で2割を超え、他の地域より高くなっている。

【年代別】

周知度は、男女とも20代（女性26.0%、男性33.3%）で最も高くなっている。男性では20代に続き50代（30.1%）でも3割を超えている。

【本人の職業別】

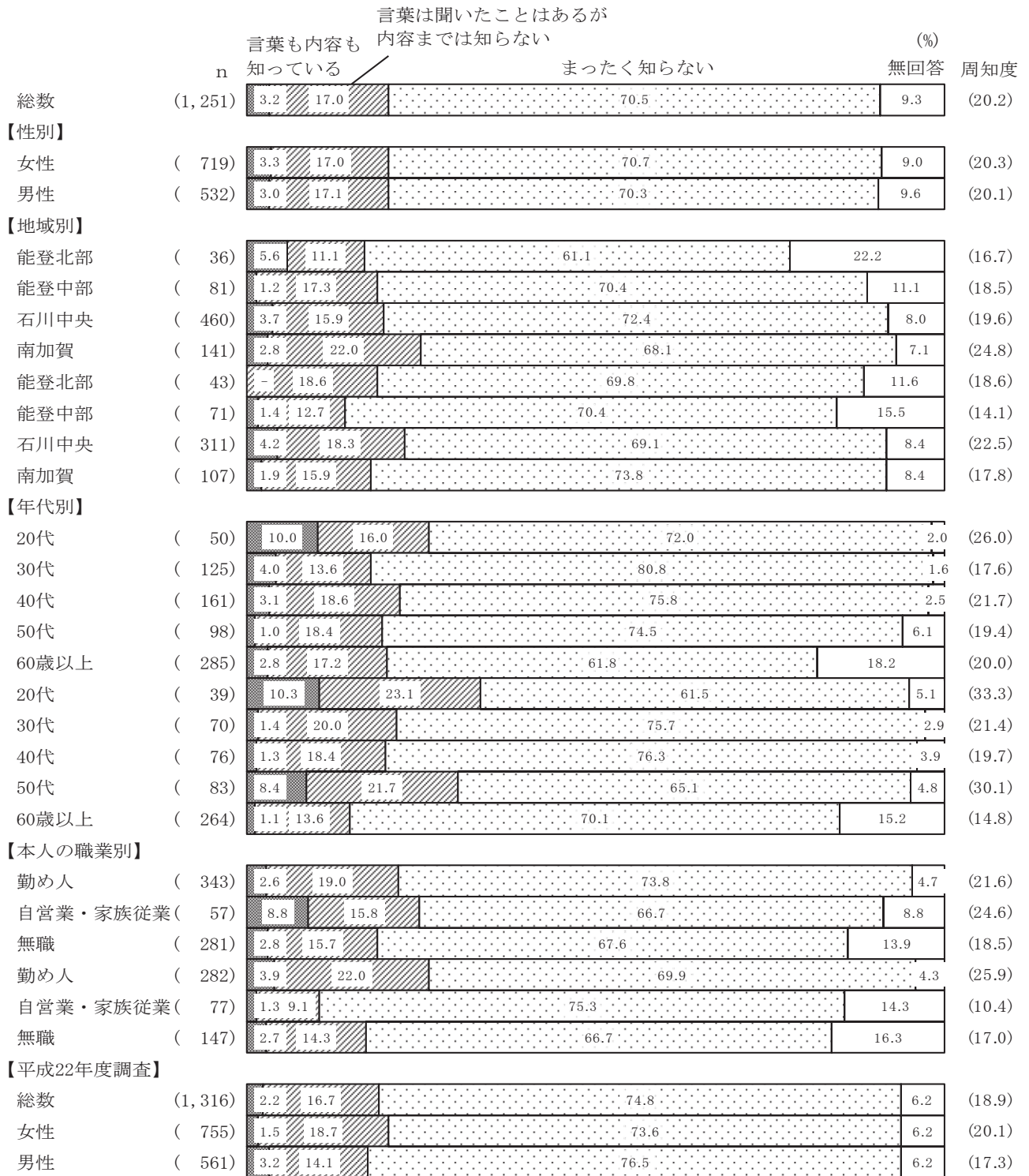
周知度は、女性では、無職（18.5%）で、男性では自営業・家族従業（10.4%）で最も低くなっている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は、女性では0.2ポイント、男性では2.8ポイント増加した。

図26-8 用語の周知度 (e) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)



用語の周知度 (f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)

【性別】

周知度は女性の方が5.3ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は女性では、石川中央 (41.5%) と南加賀 (43.3%) で4割を超えており、他の地域より高くなっている。

男性では、石川中央 (37.9%) と南加賀 (34.6%) で3割を超えており、他の地域より高くなっている。

【年代別】

男女とも周知度は20代 (女性60.0%、男性56.4%) で最も高く、「言葉も内容も知っている」も20代 (女性36.0%、男性41.0%) で3~4割台と、最も多くなっている。

【本人の職業別】

周知度は女性では無職 (34.2%) で、男性では、自営業・家族従業 (19.5%) で、最も低くなっている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は女性では11.2ポイント、男性では8.8ポイント増加した

図26-9 用語の周知度 (f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)
 (性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)

| | n | 言葉は聞いたことはあるが | | | | 無回答 (%) | 周知度 (%) |
|-------------------|----------|--------------|------------|----------|------|---------|---------|
| | | 言葉も内容も知っている | 言葉も内容も知らない | まったく知らない | | | |
| 総数 | (1,251) | 16.5 | 21.3 | 53.1 | 9.1 | (37.8) | |
| 【性別】 | | | | | | | |
| 女性 | (719) | 19.5 | 20.6 | 51.2 | 8.8 | (40.1) | |
| 男性 | (532) | 12.6 | 22.2 | 55.6 | 9.6 | (34.8) | |
| 【地域別】 | | | | | | | |
| 女性 | 能登北部 | (36) | 13.9 | 19.4 | 47.2 | 19.4 | (33.3) |
| | 能登中部 | (81) | 16.0 | 13.6 | 59.3 | 11.1 | (29.6) |
| | 石川中央 | (460) | 20.7 | 20.9 | 50.7 | 7.8 | (41.5) |
| | 南加賀 | (141) | 19.1 | 24.1 | 49.6 | 7.1 | (43.3) |
| 男性 | 能登北部 | (43) | 4.7 | 23.3 | 60.5 | 11.6 | (27.9) |
| | 能登中部 | (71) | 5.6 | 19.7 | 60.6 | 14.1 | (25.4) |
| | 石川中央 | (311) | 16.1 | 21.9 | 53.4 | 8.7 | (37.9) |
| | 南加賀 | (107) | 10.3 | 24.3 | 57.0 | 8.4 | (34.6) |
| 【年代別】 | | | | | | | |
| 女性 | 20代 | (50) | 36.0 | 24.0 | 40.0 | - | (60.0) |
| | 30代 | (125) | 25.6 | 28.8 | 44.0 | 1.6 | (54.4) |
| | 40代 | (161) | 26.7 | 20.5 | 49.7 | 3.1 | (47.2) |
| | 50代 | (98) | 19.4 | 18.4 | 56.1 | 6.1 | (37.8) |
| | 60歳以上 | (285) | 9.8 | 17.2 | 55.4 | 17.5 | (27.0) |
| 男性 | 20代 | (39) | 41.0 | 15.4 | 41.0 | 2.6 | (56.4) |
| | 30代 | (70) | 18.6 | 35.7 | 44.3 | 1.4 | (54.3) |
| | 40代 | (76) | 14.5 | 22.4 | 60.5 | 2.6 | (36.8) |
| | 50代 | (83) | 15.7 | 33.7 | 42.2 | 8.4 | (49.4) |
| | 60歳以上 | (264) | 5.3 | 15.9 | 63.6 | 15.2 | (21.2) |
| 【本人の職業別】 | | | | | | | |
| 女性 | 勤め人 | (343) | 22.4 | 21.9 | 51.3 | 4.4 | (44.3) |
| | 自営業・家族従業 | (57) | 19.3 | 21.1 | 52.6 | 7.0 | (40.4) |
| | 無職 | (281) | 15.7 | 18.5 | 52.3 | 13.5 | (34.2) |
| 男性 | 勤め人 | (282) | 17.4 | 27.7 | 50.7 | 4.3 | (45.0) |
| | 自営業・家族従業 | (77) | 1.3 | 18.2 | 66.2 | 14.3 | (19.5) |
| | 無職 | (147) | 9.5 | 14.3 | 58.5 | 17.7 | (23.8) |
| 【平成22年度調査】 | | | | | | | |
| 総数 | (1,316) | 10.9 | 16.8 | 66.0 | 6.4 | (27.7) | |
| 女性 | (755) | 11.5 | 17.4 | 65.2 | 6.0 | (28.9) | |
| 男性 | (561) | 10.0 | 16.0 | 67.0 | 7.0 | (26.0) | |

用語の周知度 (g) DV (配偶者や交際相手からの暴力)

【性別】

周知度は女性の方が0.8ポイント高く、「言葉も内容も知っている」は女性の方が4.9ポイント多くなっており、男女とも7割を超えている。

【地域別】

「言葉も内容も知っている」は女性では、石川中央(79.1%)と南加賀(84.4%)で、男性では、南加賀(76.2%)で7割を超え、他の地域より多くなっている。

【年代別】

周知度は、男女とも60歳以上(女性73.0%、男性77.7%)で他の年代よりも低くなっている。「言葉も内容も知っている」は男女とも20代(女性94.0%、男性89.7%)で最も多くなっている。

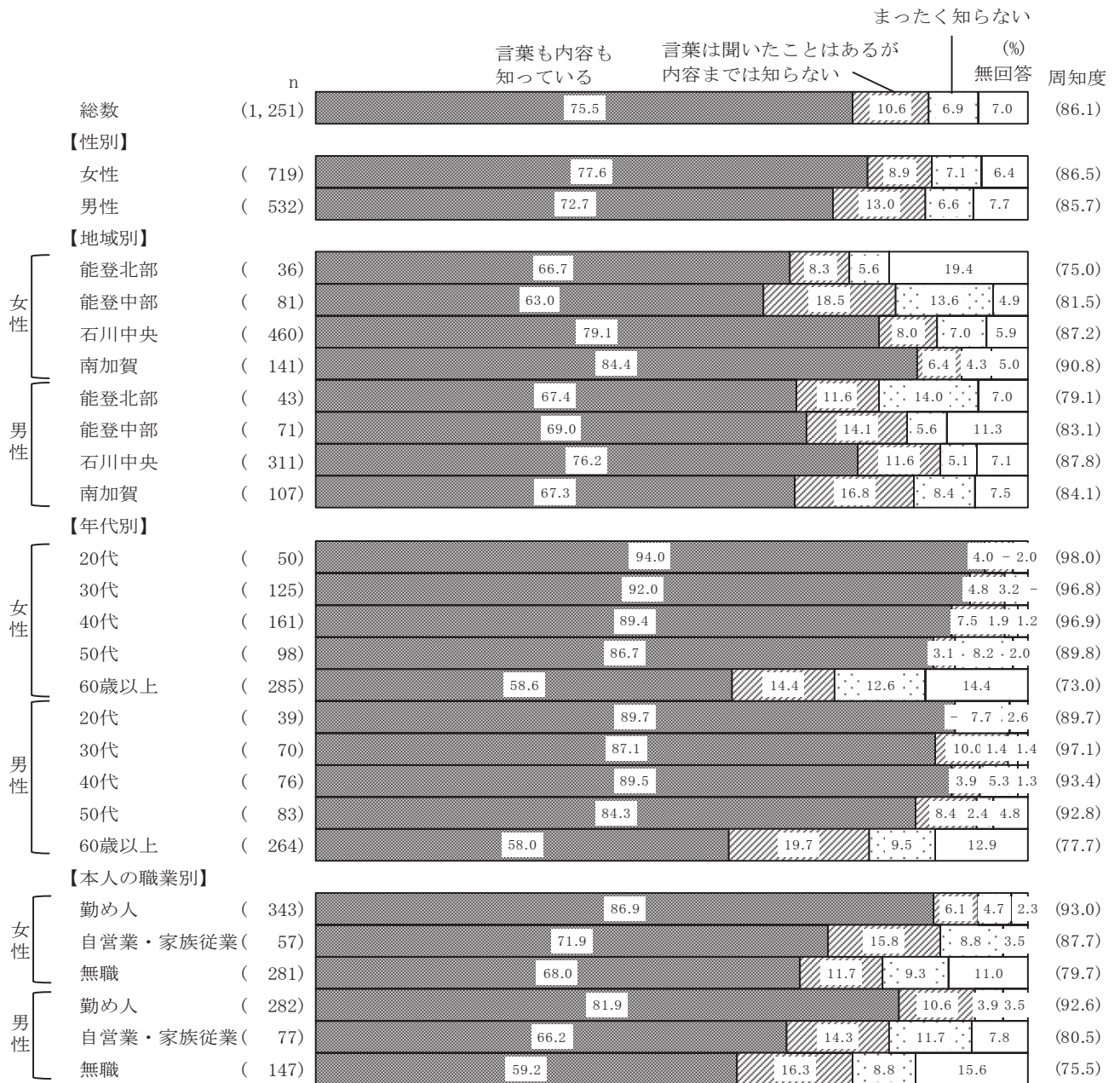
【本人の職業別】

周知度は、男女とも勤め人(女性93.0%、男性92.6%)で最も高く、無職(女性79.7%、男性75.5%)で最も低くなっている。

(※平成27年度調査 新規項目)

図26-10 用語の周知度 (g) DV (配偶者や交際相手からの暴力)

(性別、地域別、年代別、本人の職業別)



用語の周知度 (h) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

【性別】

周知度は、男性の方が0.1ポイント高くなっている。

【地域別】

周知度は、男女とも石川中央(女性54.3%、男性54.0%)と南加賀(女性51.1%、男性53.3%)で5割を超え、他の地域より高くなっている。

男性では、「言葉も内容も知っている」は能登北部(11.6%)で最も少なくなっている。

【年代別】

周知度は、女性では20代(62.0%)で、男性では50代(66.3%)で最も多くなっている。「言葉も内容も知っている」は男女とも30代(女性36.0%、男性40.0%)で最も多く、60歳以上(女性17.2%、男性15.5%)が最も少なくなっている。

【本人の職業別】

周知度は男女とも、勤め人(女性55.7%、男性59.2%)で最も多くなっている。「言葉も内容も知っている」は男性の自営業・家族従業(11.7%)、無職(12.2%)で他の層よりも少なくなっている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は、男女とも15.9ポイント増加し、「言葉も内容も知っている」は女性では16.3ポイント、男性では14.3ポイント増加した。

図26-11 用語の周知度 (h) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)
(性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)

| | | n | 言葉も内容も知っている | 言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない | まったく知らない | (%) 無回答 | 周知度 |
|------------|----------|---------|-------------|-----------------------|----------|------------|--------|
| 総数 | | (1,251) | 25.3 | 27.1 | 38.0 | 9.7 | (52.4) |
| 【性別】 | | | | | | | |
| 女性 | | (719) | 25.2 | 27.1 | 37.8 | 9.9 | (52.3) |
| 男性 | | (532) | 25.4 | 27.1 | 38.2 | 9.4 | (52.4) |
| 【地域別】 | | | | | | | |
| 女性 | 能登北部 | (36) | 22.2 | 22.2 | 36.1 | 19.4 | (44.4) |
| | 能登中部 | (81) | 21.0 | 25.9 | 42.0 | 11.1 | (46.9) |
| | 石川中央 | (460) | 25.9 | 28.5 | 36.3 | 9.3 | (54.3) |
| | 南加賀 | (141) | 26.2 | 24.8 | 41.1 | 7.8 | (51.1) |
| 男性 | 能登北部 | (43) | 11.6 | 34.9 | 44.2 | 9.3 | (46.5) |
| | 能登中部 | (71) | 22.5 | 25.4 | 35.2 | 16.9 | (47.9) |
| | 石川中央 | (311) | 29.9 | 24.1 | 37.3 | 8.7 | (54.0) |
| | 南加賀 | (107) | 19.6 | 33.6 | 40.2 | 6.5 | (53.3) |
| 【年代別】 | | | | | | | |
| 女性 | 20代 | (50) | 30.0 | 32.0 | 36.0 | 2.0 | (62.0) |
| | 30代 | (125) | 36.0 | 20.0 | 42.4 | 1.6 | (56.0) |
| | 40代 | (161) | 31.7 | 28.0 | 37.3 | 3.1 | (59.6) |
| | 50代 | (98) | 21.4 | 27.6 | 43.9 | 7.1 | (49.0) |
| | 60歳以上 | (285) | 17.2 | 28.8 | 34.4 | 19.6 | (46.0) |
| 男性 | 20代 | (39) | 28.2 | 25.6 | 41.0 | 5.1 | (53.8) |
| | 30代 | (70) | 40.0 | 21.4 | 37.1 | 1.4 | (61.4) |
| | 40代 | (76) | 34.2 | 22.4 | 42.1 | 1.3 | (56.6) |
| | 50代 | (83) | 34.9 | 31.3 | 27.7 | 6.0 | (66.3) |
| | 60歳以上 | (264) | 15.5 | 28.8 | 40.2 | 15.5 | (44.3) |
| 【本人の職業別】 | | | | | | | |
| 女性 | 勤め人 | (343) | 31.5 | 24.2 | 39.1 | 5.2 | (55.7) |
| | 自営業・家族従業 | (57) | 24.6 | 28.1 | 40.4 | 7.0 | (52.6) |
| | 無職 | (281) | 19.6 | 28.5 | 36.3 | 15.7 | (48.0) |
| 男性 | 勤め人 | (282) | 36.9 | 22.3 | 37.2 | 3.5 | (59.2) |
| | 自営業・家族従業 | (77) | 11.7 | 20.8 | 51.9 | 15.6 | (32.5) |
| | 無職 | (147) | 12.2 | 38.1 | 32.0 | 17.7 | (50.3) |
| 【平成22年度調査】 | | | | | | | |
| 総数 | | (1,316) | 9.8 | 26.7 | 57.8 | 5.8 | (36.5) |
| 女性 | | (755) | 8.9 | 27.5 | 57.7 | 5.8 | (36.4) |
| 男性 | | (561) | 11.1 | 25.5 | 57.8 | 5.7 | (36.5) |

用語の周知度 (i) 男女雇用機会均等法

【性別】

周知度は女性の方が0.6ポイント多く、「言葉も内容も知っている」は、男性の方が5.2ポイント多くなっている。

【地域別】

周知度は、男女とも能登北部（女性69.4%、男性76.7%）で他の地域より低くなっている。「言葉も内容も知っている」は女性では石川中央（56.1%）と南加賀（51.8%）で、男性では石川中央（63.3%）、南加賀（59.8%）、能登中部（52.1%）で5割を超えているが、能登北部（女性41.7%、男性32.6%）では少なくなっている。

【年代別】

「言葉も内容も知っている」は男女とも60歳未満では6割を超えているが、60歳以上の女性（37.2%）で最も少なくなっている。

【本人の職業別】

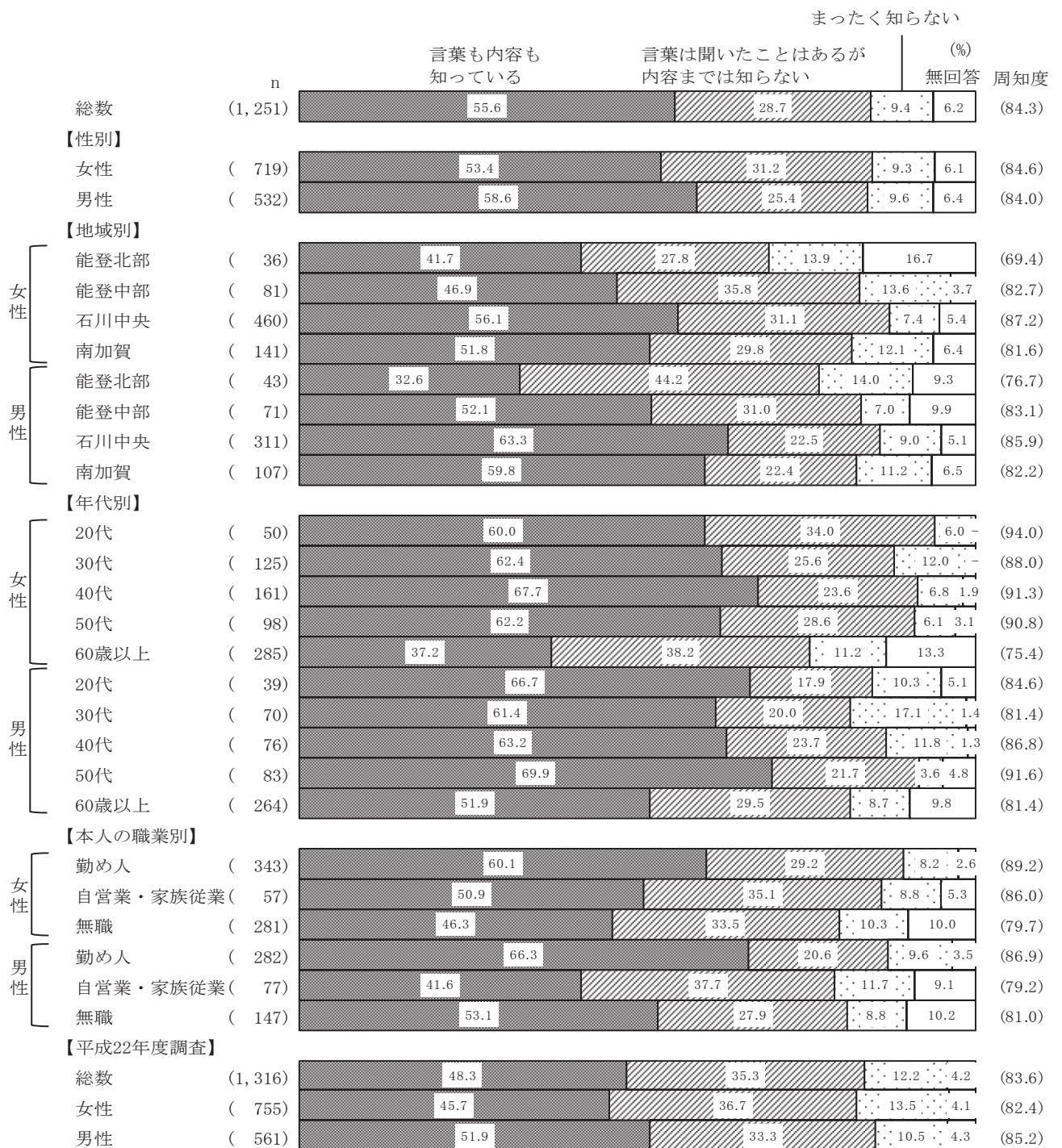
周知度は、男女とも勤め人（女性89.2%、男性86.9%）で最も高くなっている。

【平成22年度調査との比較】

周知度は、女性では2.2ポイント増加し、男性では1.2ポイント減少した。「言葉も内容も知っている」は女性では7.7ポイント、男性では6.7ポイント増加した。

図26-12 用語の周知度 (i) 男女雇用機会均等法

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、平成22年度調査結果)

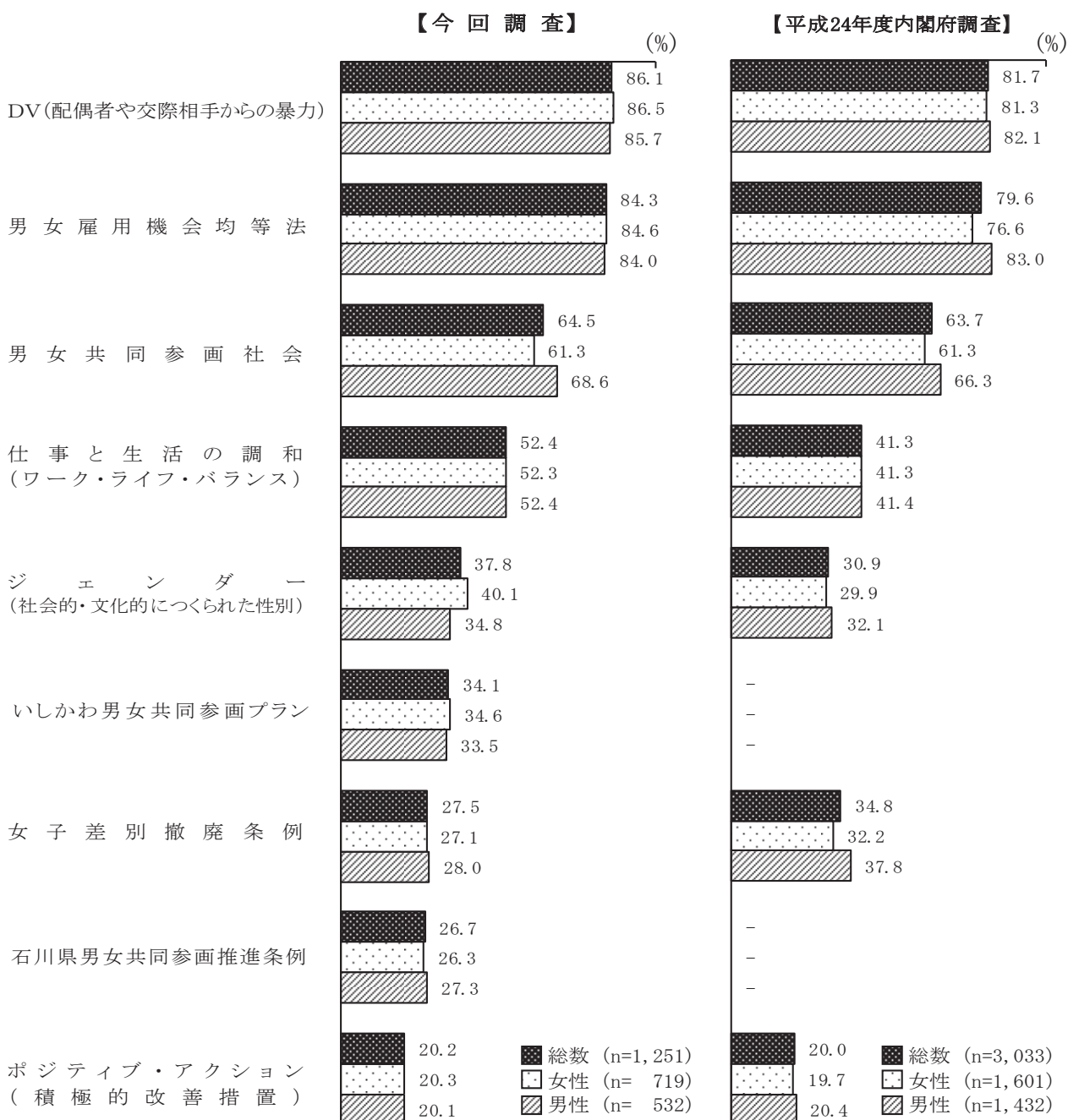


用語の周知度 平成24年度内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」との比較

内閣府が平成24年10月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」における調査結果と傾向を比較する。(但し、内閣府調査は「調査員による個別面接聴取法」で実施していることや、質問文、回答選択肢が異なること等から厳密な比較はできない。)「DV(配偶者や交際相手からの暴力)」、「男女雇用機会均等法」、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)」の周知度は男女とも内閣府世論調査より高くなっている。

※今回調査の選択肢「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが内容までは知らない」を合計した数値(=周知度)と、平成24年度内閣府調査の「見たり聞いたりしたことがあるもの」の数値を比較。

図26-13 用語の周知度 平成24年度内閣府調査との比較(性別)



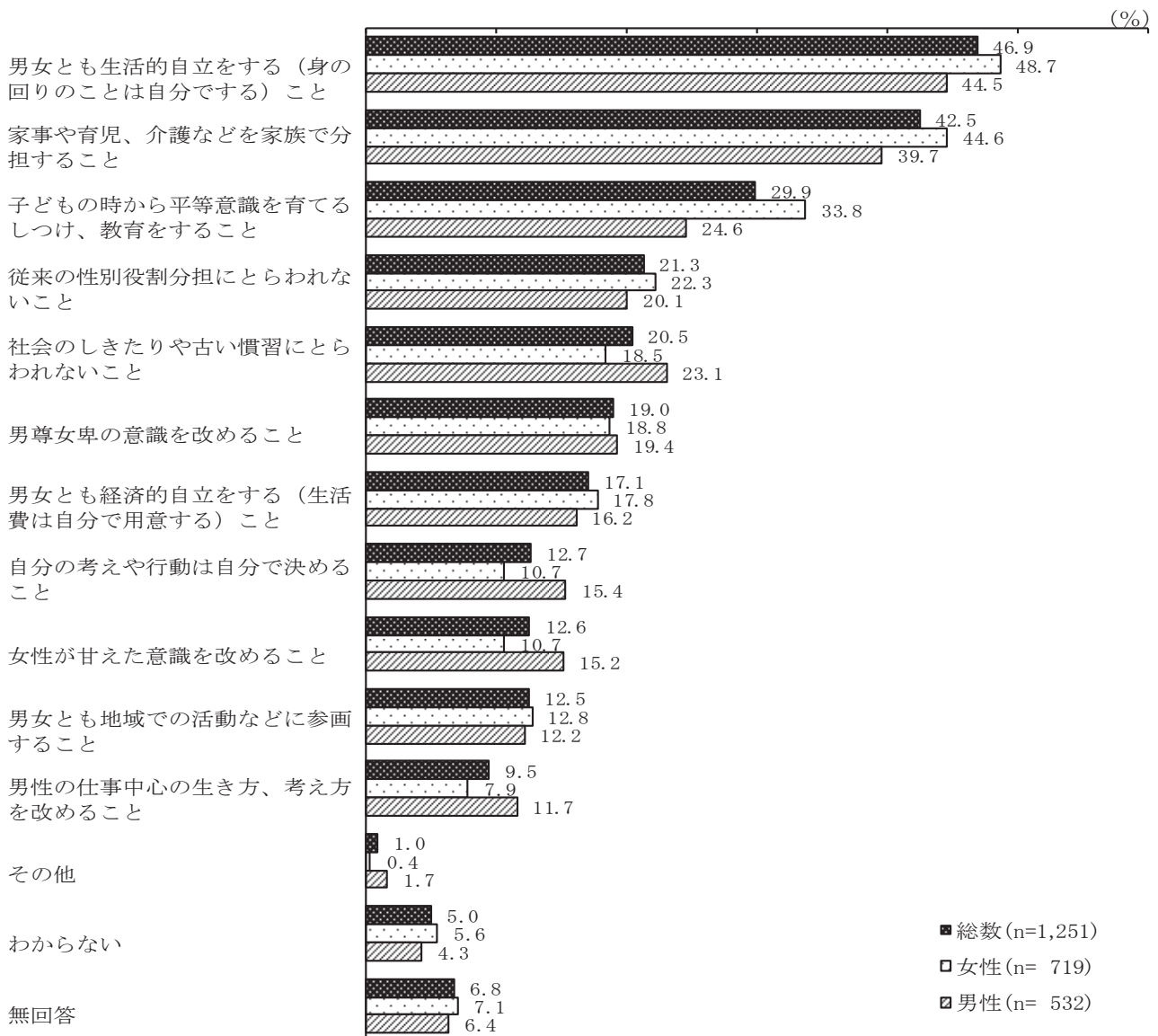
2 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

問27 男女共同参画社会の実現のためには、どのようなことが必要だと思われますか。(〇は3つまで)

男女とも、最も多かったのは「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分でする）こと」（女性48.7%、男性44.5%）、次いで「家事や育児、介護などを家族で分担すること」（女性44.6%、男性39.7%）、「子どもの時から平等意識を育てるしつけ、教育をすること」（女性33.8%、男性24.6%）の順となった。

男女の差が大きかったのは「子どもの時から平等意識を育てるしつけ、教育をすること」で、女性が男性よりも9.2ポイント多くなった。

図27-1 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと 項目別一覧（性別）



男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

【性別】

「子どもの時から平等意識を育てるしつけ、教育をすること」は女性の方が9.2ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」で能登中部（55.6%）が最も多くなっている。

男性では、「家事や育児、介護などを家族で分担すること」で能登北部（51.2%）が最も多くなっている。

男女とも、「子どもの時から平等意識を育てるしつけ、教育をすること」は能登北部（女性16.7%、男性16.3%）が、「従来の性別役割分担にとらわれないこと」でも能登北部（女性13.9%、男性14.0%）が他の地域より少なくなっている。

【年代別】

女性では、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」が20代（62.0%）で、「家事や育児、介護などを家族で分担すること」が30代（60.0%）で最も多くなっている。

男性では、「従来の性別役割分担にとらわれないこと」（25.6%）、「男女とも経済的自立をする（生活費は自分で用意すること）」（25.6%）、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」（20.5%）で20代が最も多くなっている。

【未既婚別】

男女とも、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」は未婚で最も多くなっている（女性54.7%、男性50.6%）。「男女とも経済的自立をする（生活費は自分で用意すること）」は男性の未婚（27.0%）で多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」が独身期（54.7%）家族形成・成長前期（54.6%）、家族成長後期（55.3%）で5割を超えた。「家事や育児、介護などを家族で分担すること」は家族形成・成長前期（60.8%）で最も多くなっている。

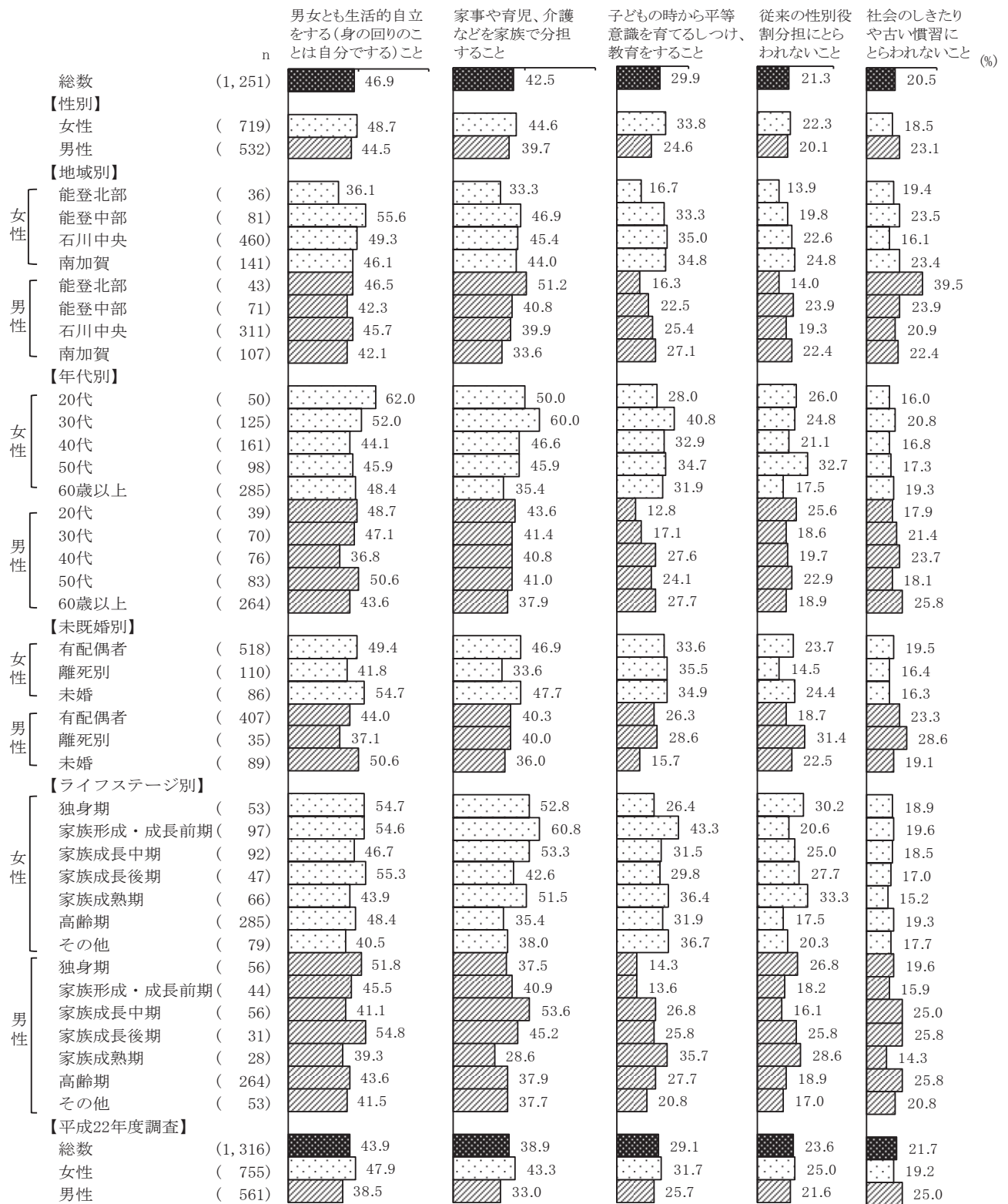
男性では、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」は独身期（51.8%）と家族成長後期（54.8%）で多く、「家事や育児、介護などを家族で分担すること」は家族成長中期（53.6%）で最も多い。

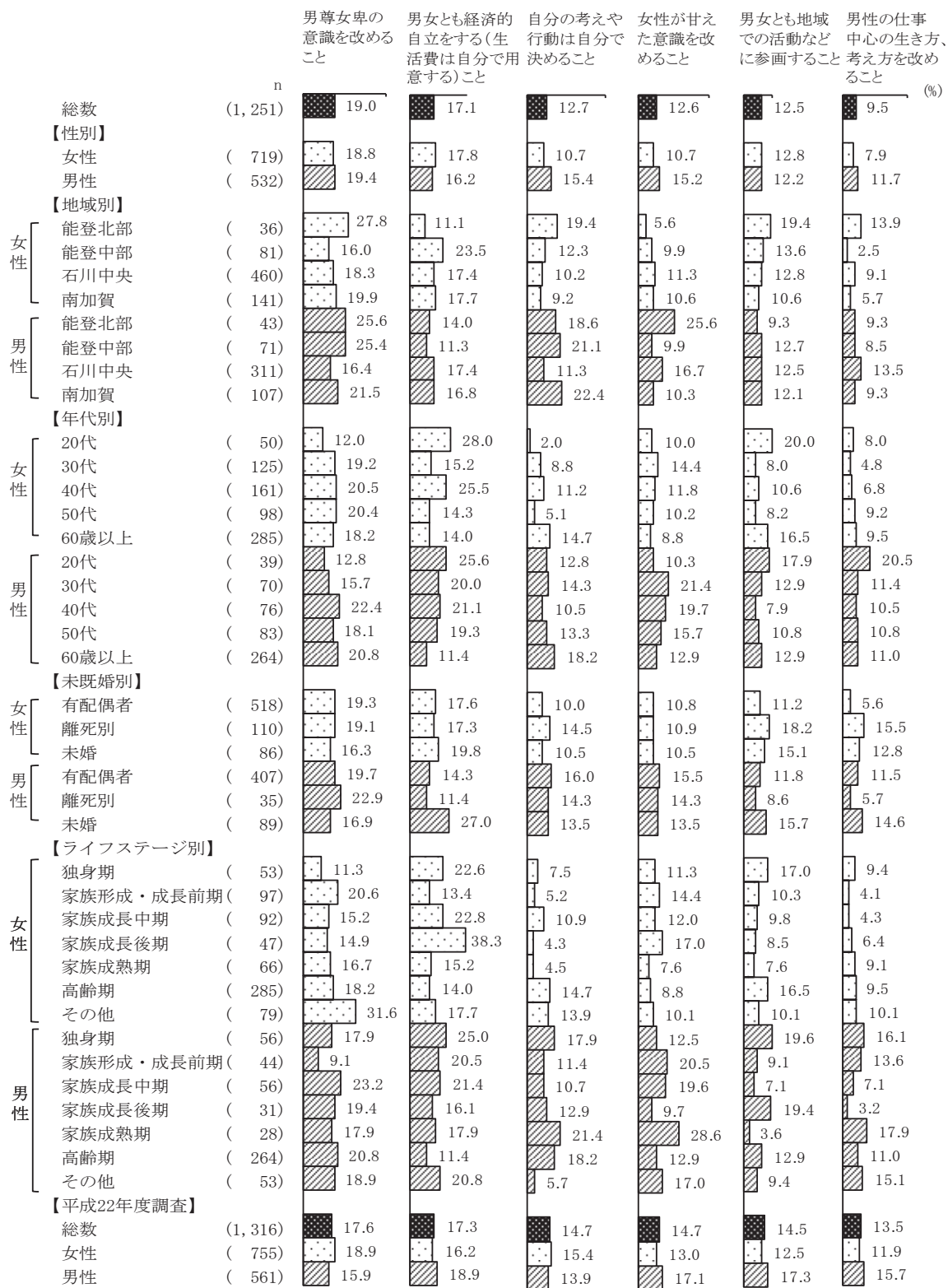
【平成22年度調査との比較】

男性で、「男女とも生活的自立をする（身の回りのことは自分ですること）」は6ポイント、「家事や育児、介護などを家族で分担すること」は6.7ポイント多くなり、「男女とも地域での活動などに参画すること」が5.1ポイント少なくなった。

図27-2 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

(性別、地域別、年代別、未婚婚別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)





3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

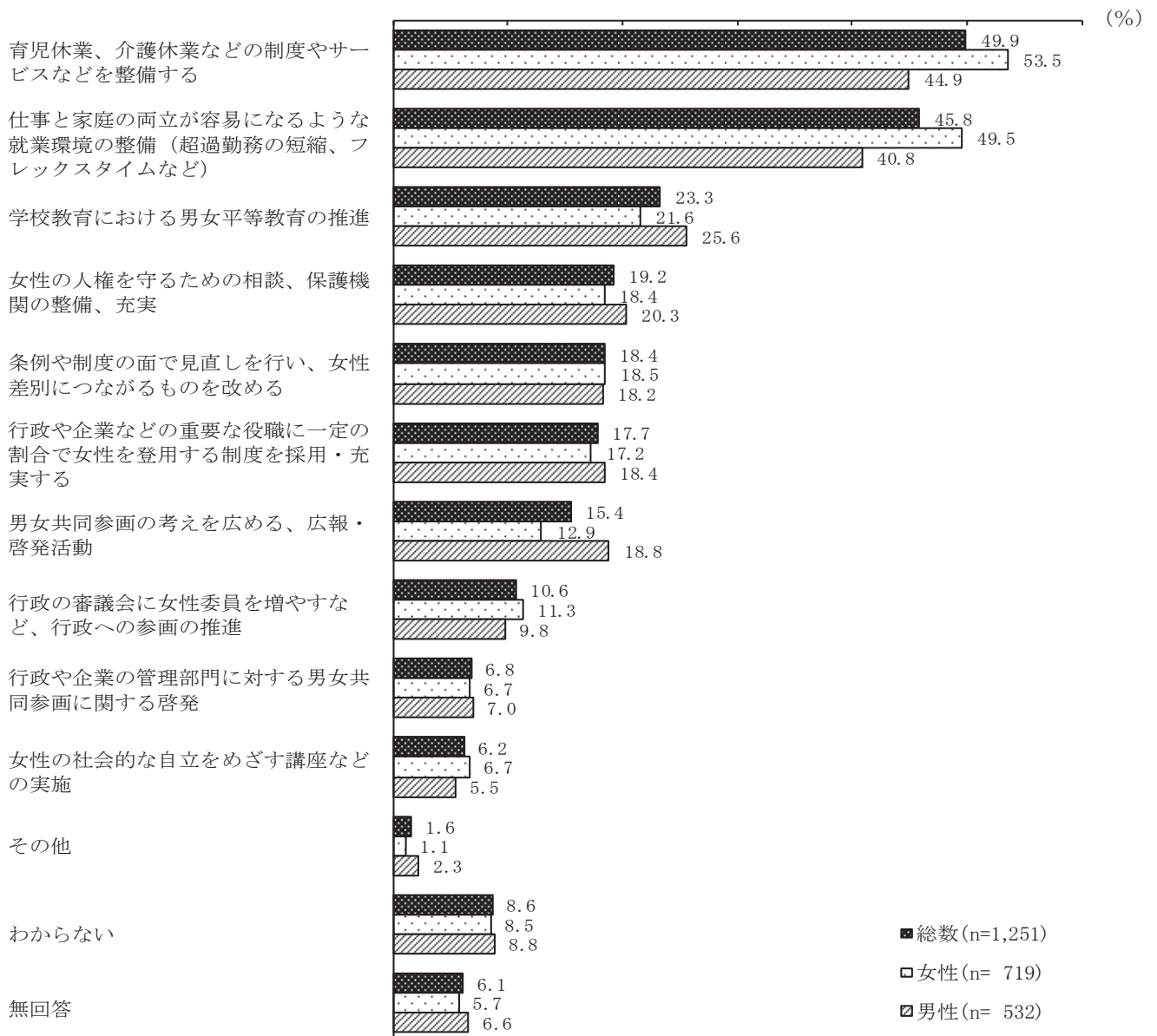
問28 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことでしょうか。(〇は3つまで)

男女とも、最も多かったのは「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」(女性53.5%、男性44.9%)、次いで「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備(超過勤務の短縮、フレックスタイムなど)」(女性49.5%、男性40.8%)となっており、いずれも女性の方が高くなっている。

続いて、男女とも「学校教育における男女平等教育の推進」(女性21.6%、男性25.6%)となっている。

以下、女性では「条例や制度の面で見直しを行ない、女性差別につながるものを改める」(18.5%)、男性では「女性の人権を守るための相談、保護機関の整備、充実」(20.3%)が続いている。

図28-1 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと 項目別一覧(性別)



男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

【性別】

「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」では8.6ポイント、「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」では8.7ポイント、女性の方が多くなっている。

【地域別】

女性では、「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」が能登中部（67.9%）で最も多くなっている。「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」は能登北部（36.1%）で最も少ない。

男性では、「学校教育における男女平等教育の推進」は能登中部（18.3%）で最も少なくなっている。

【年代別】

女性では、「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」が20代（66.0%）と30代（60.8%）で6割を超えている。また「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」は30代（66.4%）と40代（60.9%）、50代（56.1%）で多くなっている。

男性では、「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」が20代（53.8%）、30代（57.1%）で5割を超えている。「学校教育における男女平等教育の推進」では50代（33.7%）が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」は未婚（59.3%）で最も多くなっており、「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」は有配偶者（53.7%）で他の層よりも多くなっている。

男性では離死別は「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」（51.4%）で最も多くなっている。

【本人の職業別】

女性では、「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」が勤め人（62.3%）と自営業・家族従業（63.9%）で6割を超えている。また「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」でも自営業・家族従業（68.0%）が多くなっている。

男性では、「育児休業、介護休業などの制度やサービスなどを整備する」が自営業・家族従業（65.2%）で6割を超え、「仕事と家庭の両立が容易になるような就業環境の整備（超過勤務の短縮、フレックスタイムなど）」も勤め人（61.7%）と自営業・家族従業（60.6%）で6割を超えた。

【平成22年度調査との比較】

男女とも「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」でそれぞれ女性で3.4ポイント、男性で3.2ポイント増加している。

女性では「女性の人権を守るための相談、保護機関の整備、充実」が4.1ポイント減少しており、男性では「行政の審議会に女性委員を増やすなど、行政への参画の推進」が3.6ポイント減少している。（平成22年度調査は回答選択肢が異なるものがあること等から厳密な比較はできない）

図28-2 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、平成22年度調査結果)

